

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	企画班	渋谷博徳	0182-32-9501	機能合体強化交付金事業(農産物直売所応援事業)	消費者の地産地消への関心の高まりに後押しされ、県内トップクラスの売上げを誇る直売所も誕生してきている。 しかし、管内の直売所の多くは規模が小さく、中には弱体化している組織も見られる。 このため、既存直売組織の強化と直売所のレベルアップを図り、活性化した直売所から地域の魅力を伝えるとともに「食・農・観」連携による新たなアグリビジネスの展開を促して地域の活性化を図る。	242,000	交付金	・レベルアップ視察研修(7月、宮城県) 渡辺採種場瀬峰研修農場を視察し、野菜の栽培技術等を研修した。	横手市	農産物直売組織	平成25年4月1日	・行政・生産者が連携して事業を実施し、より生産者の意向を反映した効果的な研修とすることができた。 ・よこての味推進協議会では今後の組織発展に向けた推進体制の検討会を実施する予定となっており、一連の研修内容が問題意識の提起につながったものと考えている。	・現在、協議会を構成している個人・組織ともに高齢化が進み、協議会からの脱退が年々増加している状況。 ・未加入の個人・組織(若い世代)への加入の呼びかけを実施しながら、協議会の世代交代を目指している。 今後、各種事業の周知を地区役員が中心となって実施していく。また、研修内容についても、若い世代をターゲットとした研修内容にしていきたい。
						平成25年7月～平成26年3月	・農産加工研修(2月) 料理研究家を講師に招き、米粉料理に関する調理研修を実施した。 ・農産加工研修(3月) 県農林部及び福祉環境部職員を講師に招き、食品衛生に関する研修を実施した。								
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	企画班	渋谷博徳	0182-32-9501	機能合体強化交付金事業(農業ビジネスチャンス創出応援事業)	多様化した消費者ニーズ等に対応するため、新商品の開発や優良な農産品等の掘り起こしが強く求められている。 加えて、地域の特徴を活かした各種プロモーションを行うことで、積極的に横手産品をPRし、「売れる仕組みづくり」への取り組みを展開していくことが不可欠である。 このような理由から、大都市圏での販路開拓・拡大に向けたマーケティング活動の一環として、横手フェアの開催や首都圏などで行われる商談会などに積極的に参加し、実需者と生産者とのマッチング活動を強化する必要がある。	861,150	交付金	・首都圏等での現地商談会への参加(アグリフードEXPO、こだわり食品フェア) ・仙台等でのフェアへの参加及び企業訪問	横手市	横手市内の農業生産者と農産加工者	平成25年4月1日	・8月開催のアグリフードEXPOでは、4件(180万円)の商談成立を獲得した。 ・仙台圏での物産展では、生産者と消費者との直接対話で商品の販売促進が進み、固定客が増えたことで常時取引への足掛かりを作ることができた。	・各種商談会への出展並びに販売促進PRは今後も必要ではあるが、良い商品を作っても、それを売り込むノウハウやスキルが十分とは言えない。商談に対する生産農家等のスキルアップが必要である。 ・今後は、単なる商品の販売目的ではなく、生産者の商談交渉スキルアップをめざしたセミナーなどを開催し、その検証のための商談会参加や、収穫した農産品(商品)を持参し企業へ売り込むような事業支援も行いたい。
						平成25年4月～平成26年3月	・首都圏や仙台圏への横手産品の橋渡し役として効果が確認できた。								
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	企画班	渋谷博徳	0182-32-9501	機能合体強化交付金事業(担い手経営サポート事業)	平鹿管内には81の集落営農組織等が設立されているが、その70%が未だ任意組織のまま活動している。 今後は、個人の担い手の支援に加え、これら組織の法人化を進め、複合化・多角化経営を実践することにより、戦略目的の導入や加工等の新たな部門導入による組織経営体の体質強化を図ることが急務であり、そのためのフォローアップ活動を支援する必要がある。	520,000	交付金	パソコン簿記研修の実施(12月、2月の計2回)	横手市	集落営農組織、認定農業者等の担い手農業者	平成25年4月1日	・複式簿記の実施により、経営状況の把握が容易になるほか、各種支援制度や税制上の優遇措置も適用されるため、担い手の経営発展のために大きな効果をもたらした。	・現在中心となって活動している担い手は個人・組織共に高齢化が進んでおり、新たに複式簿記に取り組もうとする方の掘り起しは年々難しい状況になってきている。 ・今後は、集落営農組織を重点に置きつつ、新規就農者支援の視点もこれまで以上に盛り込みながら研修内容を改善していきたい。
						平成25年12月～平成26年2月									

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	伊藤貴絵	0182-32-1805	よこての野菜拡大支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市は、県内においてトップクラスの園芸産地となっているが、担い手の高齢化や後継者不足、さらには農産物の価格低迷により産出額が低迷している。</li> <li>・本事業は平成25年度からの取組となっており、ねぎ、アスパラガス、ほうれんそう、スイカ、えだまめの5品目を重点野菜として位置づけ、生産拡大のための取り組みを行ってきた。</li> <li>・平成26年度は、そのうち、県の施策を補完する形で横手ならではの野菜であるほうれんそう、スイカに重点を絞って生産拡大を図る。</li> </ul>	216,417	直営	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新規栽培者等を対象に導入品目の選定に参考にしてもらったためのセミナー開催。</li> <li>・現地栽培技術研修会(9月)</li> <li>・事業導入支援研修会(11月)</li> <li>・新規栽培者講習会(1月)</li> <li>②ネギ・アスパラガス・ホウレンソウ・スイカ・エダマメの新規栽培に取り組む生産者の早期定着の支援</li> <li>・品目別実践ほの設置(4か所)</li> </ul>	平鹿地域振興局農林部	管内野菜農家及び野菜生産を拡大しようと考えている農家	平成25年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術のレベルアップにつながる研修会を開催したことで、より高品質な野菜生産が期待できる。</li> <li>・現地研修会を通じて地域生産者とのつながりが一層深まった。</li> <li>・実践ほ設置により、地域や担当農家の課題解決に取り組んだことで、今後の課題や方向性が明確になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術向上の研修会を開催し、より一層高品質な野菜生産を行えるよう支援していく。</li> <li>・地域とのつながりをもつことも大切であり、地域生産者とのつながりを持たせ、地域の一人となれるようにする。</li> </ul>
						平成25年9月～平成26年1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉講習会の実施により、受粉の具体的な方法等について生産者に周知できた。</li> <li>・管内の人工受粉の実施面積は約28haで、前年の3倍以上に達した。</li> <li>・実証圃場の設置により人工受粉の効果を確認でき、今後の実施拡大に弾みが付いた。</li> <li>・人工受粉の実施率が向上することで、より高品質な果実を消費者へ供給することが期待される。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉の実施率を一層向上させ、高品質な果実生産を推進する。</li> </ul>					
農林部	長沢淳良	農業振興普及課	産地・技術普及班	長坂和彦	0182-32-1805	横手の果樹ブランド力向上事業(横手りんご高品質推進事業)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手りんごは、糖度が高く食味が良いことが特徴であるが、人工受粉の実施率が低いことにより結実不良や不整形な果実が多い傾向。</li> <li>・特に、本年のような開花期が天候不順の年は、人工受粉を実施した園地と行っていない園地とで、果形など品質の差が大きくなっている。</li> <li>・このため、地域の拠点となる生産者を対象に人工授粉の実証圃を設け、周辺の生産者に受粉効果を実感してもらい、地域全体へ取組を波及させることが必要。</li> <li>・雪害からの復旧と併せ、受粉作業の徹底による品質の向上により、「横手ブランド」をより一層高めていく。</li> </ul>	174,454	直営	<ul style="list-style-type: none"> <li>高品質な果実生産につながる人工受粉の普及拡大に向けた取組</li> <li>・人工受粉実証圃場の設置(管内25園地)</li> <li>・人工受粉講習会(平鹿2か所、横手1か所)</li> <li>・先進地調査(青森県)</li> </ul>	平鹿地域振興局農林部	果樹生産者	平成25年4月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉講習会の実施により、受粉の具体的な方法等について生産者に周知できた。</li> <li>・管内の人工受粉の実施面積は約28haで、前年の3倍以上に達した。</li> <li>・実証圃場の設置により人工受粉の効果を確認でき、今後の実施拡大に弾みが付いた。</li> <li>・人工受粉の実施率が向上することで、より高品質な果実を消費者へ供給することが期待される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉の実施率を一層向上させ、高品質な果実生産を推進する。</li> </ul>
						平成25年4月～平成26年3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉講習会の実施により、受粉の具体的な方法等について生産者に周知できた。</li> <li>・管内の人工受粉の実施面積は約28haで、前年の3倍以上に達した。</li> <li>・実証圃場の設置により人工受粉の効果を確認でき、今後の実施拡大に弾みが付いた。</li> <li>・人工受粉の実施率が向上することで、より高品質な果実を消費者へ供給することが期待される。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・人工受粉の実施率を一層向上させ、高品質な果実生産を推進する。</li> </ul>					

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
農林部	長沢淳良	農業振興 普及課	産地・技術 普及班	長坂和彦 平良木朱 美	0182-3 2-1805	横手の果樹ブランド力向 上事業 (種なし大粒ぶどう産地加 速化事業)	・当地域は県内一のぶど う産地。現在の品種は中 粒種が7割を占めるが、消 費者ニーズの変化により、 種なし大粒ぶどうへの転 換が必要。23年度末で栽 培面積21ha、JA販売額 850万円程度まで拡大し たが、加速的な産地化が課 題。 ・特に「シャインマスカ ット」は、消費者ニーズが 極めて高く、比較的栽培も しやすいことから、急速な 生産拡大が必要。 ・また、横手地域に適した 優良黒色系・赤色系品種 の検討を行い、「シャイン マスカット」と併せた販売 が可能な品種の検討が必 要。	620,146	直営	1 「シャインマスカット」 のブランド確立に向けた 技術向上支援 ・摘粒講習会(7月) ・先進地視察研修 (山梨県、8月) ・現地検討会(8月) ・果実品質検討会 (10月)	平鹿地域振興 局農林部	果樹生産 者	平成25年4月1日	・先進地視察研修や果実 品質検討会などを通じて、 生産者がシャインマスカ ットの生産技術・販売につ いての知識を高め、一層の 生産意欲向上につなが った。 ・消費者ニーズが高まって いる種なし大粒ぶどうの生 産体制が整備され、安定 した供給体制が整いつつ ある。	・シャインマスカットの 新規栽培者の早期成園化に 向けて、研修会の開催や 個別指導を引き続き実施 する必要がある。 ・技術面の支援に加え、横 手産シャインマスカットの ブランド化のために、販促 活動にも取り組んでいく。 ・シャインマスカットの年 末販売を視野に入れ、長期 貯蔵技術の確立に取り組 む。
						平成25年4月～平成26 年3月	2 種なし大粒ぶどう新規 栽培者の拡大と定着支 援 ・初級者向け講習会 (年間5回) ・平成23～24年度シャ インマスカット実証モデ ル園の巡回支援 ・「シャインマスカット」 栽培マニュアルを活用し た栽培技術の高位平準 化 3 横手に適した黒色系、 赤色系品種の検討 ・シャインマスカットと のセット品種、優良品種 検討会(10月)			平成26年10月31日					
農林部	長沢淳良	農業振興 普及課	産地・技術 普及班	長坂和彦	0182-3 2-1805	横手の果樹ブランド力向 上事業 (果樹放任園等解消事業)	・平成22年度以降に発生 した果樹の雪害や果樹生 産者の高齢化・減少など の理由から、管内の放任 園・廃園が増加傾向にあ る。 ・放任園・廃園は、モモン クイガなどの病害虫の 発生源となっており、この 対策に果樹農家は苦慮し ている。 ・病害虫の発生源を絶ち、 果樹の品質向上を図るた め、早期に伐採や抜根を 行う必要がある。	125,000	補助金	・共同防除組織等による 伐採・抜根作業に関わる 経費に対して助成。  ・約210aの放任園につ いて樹木の処理を行っ た。 (処理本数718本)	横手市	共同防除 組織等	平成25年4月1日	・放任園、廃園が解消され た園地では、病害虫の発 生拡大を防止できた。 ・長年の懸案であった放 任園の解消について、本 事業の創設により、果樹 生産者から一定の評価を 得ている。	・管内の放任園は、10 ha程度と推測されるが、4 年連続の雪害の発生によ り今後も放任園の増加が 懸念されることから、数年 間は事業を継続する必要 がある。
						平成25年4月～平成26 年3月	平成26年10月31日								

部名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主体	事業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	高橋博英	地域企画課	産業振興・ 食の郷づくり 推進班	宮崎 誠	0182-3 2-2115	生産改善と取引拡大・新 規参入支援	・輸送機関連産業等で要 求される高い品質水準に 対応した工程改善等の取 組支援を進めるとともに、 管内企業間や隣県との連 携の推進による受注機会 の拡大や新規参入を支援 する。	1,309,250	直営、委 託	・改善活動指導業務の対象 企業:3社  ・自動車産業参入・取引拡 大セミナー(北上市、奥州 市) 秋田県参加企業 10社  ・自動車関連企業等工場見 学会(北上市・宮城県大衡 村) 参加企業13社	平鹿地域振興 局総務企画部	管内企業 (一部管外 企業含む)	平成25年4月1日	・改善指導を受けた企業 にあつては今期増収も見 込まれるが、品質向上とコ スト削減効果もその一因 になっていると評価されて いる。  ・県際連携交流事業につ いては、自動車産業参入 に向けた部品メーカーのニーズ を把握するとともに、岩手 県企業等との交流を深め ることができた。  ・全国でも希な3Dデジタ ル研修施設のほか自動車 組立工場の見学で参加企 業の参入に対する意欲が 沸いた。	・自動車産業に参入しよう とする企業の特性及び方 向性に沿った支援策を講 じる必要がある。  ・県際連携交流事業につ いては、岩手県と連携し、 参加企業のフォローアップ を行い、新規参入・取引拡 大に向けて支援を行って いく。  ・改善指導については一 定期間モデル的に実施し た結果、効果が確認され たことから、今後は各企 業が自主的に取組を進め る。
						平成25年4月～平成26 年3月							平成26年10月31日		
総務企画部	高橋博英	地域企画課	産業振興・ 食の郷づくり 推進班	宮崎 誠	0182-3 2-2115	ものづくり人材の育成	・高校生を対象とした工場 見学会、さらには技能五 輪メダリストによる技能実 演会等を実施し、ものづく り産業に関する確かな職 業観の醸成を図る。 ・企業の製造部門担当者 等を対象とした研修事業 を支援し、企業のスキル アップを図る。	802,340	直営、補 助金	・高校生工場見学会の実施 参加高校数:5校 見学企業:17社  ・ものづくり企業ステップ アップ研修(秋田県南工業振興会 主催)への補助 参加企業:15社	平鹿地域振興 局総務企画部 秋田県南工業 振興会	管内企業 (一部管外 企業含 む)、高校 生	平成25年4月1日	・高校生の工場見学会を 通じて、県南地域における ものづくり産業への理解を 深めることができた。  ・企業サイドからも要望の 強い、企業の中核を担う 中堅職員を対象とした研 修で好評を得た。	・工場見学会の参加対象 者を高校生以下や教育関 係者まで広げるなど、もの づくり人材育成の取組を 強化していく必要がある。  ・生産技術力、コミュニ ケーション能力の向上等 企業の人材育成に資する 取り組みを継続して支援し ていく必要がある。
						平成25年4月～平成26 年3月							平成26年10月31日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	高橋博英	地域企画 課	産業振興・ 食の郷づく り推進班	高山好美	0182-3 2-2117	食品産業支援事業	<p>・情報提供の重複を避けるため、県で保有する事業者リストに加え横手市で保有する事業者リストを統合し、各種補助金、物産展や商談会の開催情報を積極的に提供し、魅力ある横手市産品の販路拡大の機会に資する。</p> <p>・首都圏等において売込活動を積極的に展開し、県産品の情報発信機会の拡大と多様な販売チャネルの確保を図る。</p>	1,143,348	直営	<p>・情報希望事業者(97者)への情報発信(計23回)</p> <p>・県内・仙台・首都圏等での物産展の開催(秋田市:4回、仙台:3回、東京:2回)</p> <p>・首都圏で開催された商談会への出展支援(こだわり食品フェア)</p> <p>・食のマッチング商談会及びビジネススキル講習会の共同開催(講習会:8/2、商談会9/5)</p>	平鹿地域振興 局総務企画部	行政関係 者、食品・ 農業・観光 事業者	平成25年4月1日	<p>・県及び市の事業者リストを統合し一括送信することにより、情報の重複や時間のロスを解消することができた。</p> <p>・首都圏等で開催した物産展では食・農・観事業者及び県南3局の連携参加による相乗効果で、県南地域の観光資源と特産品の知名度向上を効果的に実施できた。</p> <p>・首都圏の商談会への参加は、小規模事業者には負担が大きいことから、出展料支援により、より多くの事業者に参加機会を与えた。商談成立のケースも出るなど、大きな効果が得られた。</p> <p>・食のマッチング商談会では、首都圏での市場開拓が困難な事業者に、多くの首都圏バイヤーとの商談機会を提供することができた。</p> <p>・併せて実施したビジネススキル講習会では、バイヤーに対する商品提案力の向上を図ることができた。</p>	<p>・県南3局連携により、消費力旺盛な仙台及び首都圏における各種イベントに積極的に参加し、県南食・農・観の情報発信を強化していく。</p> <p>・横手市や関係機関(商工会等)と協力し、首都圏等で開催される商談会への出展支援を行い、横手市産品の販路拡大を図る。</p> <p>・より多くの事業者に市場開拓の機会を提供するため、胃引き続き首都圏バイヤーを横手市に招いての現地商談会を開催するほか、提案能力向上のための、ビジネススキル講習会を開催する。</p>
						平成25年4月～平成26年3月	<p>・ビジネススキル講習会、各種商談会等を通じ、売れる商品づくりに向けた気運の醸成と販路拡大の機会提供を行う。</p>			平成25年4月1日			<p>・秋田DCの効果もあり、県南周遊バスは前年より乗車実績が増えるなど、観光客に一定のニーズがあることが確認できた。</p> <p>・ツアーデスク設置により角館を訪れた訪問客に対し増田を始めとする横手市の観光資源をPRすることができたほか、観光客から寄せられた様々な意見を関係者で共有し、今後の施策に活かすことができた。</p>	<p>・秋田DCでの観光客の流動を検証し、2次アクセス整備推進の検討を引き続き行うことにより観光客の受入体制の充実を図る。</p>	
総務企画 部	高橋博英	地域企画 課 (横手市観 光物産課)	観光企画 係	北嶋 幸 生	0182-3 2-2118	観光振興事業	<p>・平成25年の秋田DC、平成26年の国民文化祭と、全国に秋田を売り込む好機において、県内観光のボトルネックといわれる2次アクセス対策を実施する。</p>	1,124,996	交付金	<p>・県南の広域観光ルート造成のため県南周遊バスを運行(7～12月)</p> <p>・仙北市観光情報センターに横手市観光ツアーデスクを設置(11月～12月)</p>	横手市	観光客、 旅行者	平成25年4月1日	<p>・秋田DCでの観光客の流動を検証し、2次アクセス整備推進の検討を引き続き行うことにより観光客の受入体制の充実を図る。</p>	
						平成25年4月～平成26年3月	<p>・あわせて、地域資源の発掘や磨きあげを行い、積極的な売り込みやマスコミ等を活用した露出度の拡大により旅行商品化を促進する。</p>			平成26年10月31日			<p>・秋田DCでの観光客の流動を検証し、2次アクセス整備推進の検討を引き続き行うことにより観光客の受入体制の充実を図る。</p>		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
福祉環境部	南園智人	企画福祉課	調整・障害者班	伊藤 毅	0182-45-6137	地域医療連携推進事業	<p>県では医療保健福祉計画に、5疾病5事業(がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神医療、小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、へき地医療)について「効率的で質の高い」医療を提供することを旨として地域医療連携を推進することとしている。</p> <p>また、医療は限りある資源であり、将来にわたり地域に必要な医療を受けるためには、地域全体で医療を支え守ることが重要となるため、こうした考え方を地域住民に周知・啓発するため、平成23年度から継続して取り組んできた。</p>	173,914	直営	<p>・啓発用チラシ(みんなで守る地域医療)の作成及び配布 作成部数33,700部</p>	平鹿地域振興局福祉環境部	管内住民	平成25年4月1日	<p>普段、住民が意識していないと思われる、「地域資源としての医療」という考え方について周知するにあたって一定の効果があったと判断できる。</p>	<p>これまでの取組により、地域医療を守り支えるのは住民自身であるという考え方は一応周知できたと思われるが、この考え方に基づいた住民主体の具体的な活動の喚起が求められる。</p>
						平成25年4月～平成26年3月									
建設部	佐藤秀雄	用地課	用地・管理班	高橋克則	0182-32-6208	アダプトプログラム事業	<p>・住民の少子化や高齢化により、従来、道路や河川において実施されてきた地域自治会等による清掃や除草等の美化活動が減少している状況にある。</p> <p>・このような現状に対して、この事業は、地域の共有財産である道路・河川への愛着を深め、良好な環境づくりと利用者マナーの向上を図ることを目的に、環境先進活動団体に里親になっていただき、ゴミ拾いや除草等の維持管理を行ってもらう。県はその活動に対して支援を行う。</p>	35,282	直営	<p>【アダプト・ロード】 ① ヨコウン(株) 横手大森大内線 L=1.5km 年4回 ② JA秋田ふるさと 横手停車場線 他 L=0.8km 年3回 ③ 泉谷・細谷設備EMS 実行委員会 野崎十字線 L=0.2km 年8回</p>	平鹿地域振興局建設部	環境先進活動団体(道路3、河川1団体)	平成25年4月1日	<p>・活動団体が積極的に空き缶やゴミ拾い、除草等を実施することにより、利用する市民の環境に対する啓発が見込まれるとともに、今後、事業に参加を希望する市民や企業が増えると予想される。</p> <p>・ゴミ拾いや除草により道路や河川がきれいになり、道路を走行する市民や横手川を散策する市民に清々しさと癒やしを与えていると推測されるので、満足度は良好と判断される。</p>	<p>・現在、道路3団体、河川1団体がアダプトに参加しているが、今後、アダプト事業に意欲・関心を持っている活動団体数を増やし、道路・河川の維持管理活動の活性化を図る必要がある。</p> <p>・活動団体へのPRを積極的に行うとともに、団体が活動しやすい環境づくりを積極的に推し進める。</p>
						平成25年4月～11月									
総務企画部	高橋博英	地域企画課	企画・県民生活班	高橋浩人	0182-32-0594	県際交流事業	<p>・岩手県北上・西和賀地域と横手地域は、古くから交流が盛んであり、観光振興や地域資源の情報発信等が行われてきたほか、平成21年度からは「ものづくり産業の振興」についても連携を進めている。</p> <p>・こうした取組の一環として、温泉や食文化等の共通資源の連携した情報発信を目的とした「いわて・あきた県境国取合戦2013」を開催し、歴史ある両県交流を若い世代に繋げ、幅広い分野における交流の契機とする。</p>	150,000	負担金	<p>「いわて・あきた県境国取合戦2013」の開催</p> <p>日時: 平成25年10月6日(日) 11:00～14:30</p> <p>会場: 巢郷温泉郷特設会場</p> <p>来客数: 約2,200名</p>	平鹿地域振興局総務企画部	管内住民	平成25年4月1日	<p>・昨年より来場者が増加するなど、認知度が高まるとともに、賑わい創出の取組として無くてはならない行事になっている。</p> <p>・事前の「記者発表」や当日の県境綱引きの様子が多くのメディアで報道されるなど、パブリシティを利用したPR効果は大きいものと思われる。</p> <p>・当日のアンケートの結果より、来場者はいもの子汁などの地域の食に関心が高いことがうかがえた。</p>	<p>・メディア等を活用した温泉や食文化等の共通資源の他地域への情報発信を引き続き行い、今後も歴史ある両県交流を若い世代に繋げる交流の契機とした。</p> <p>・今後は、地元がより主体性を持った形で県際交流を図るよう支援していく。</p>
						平成25年7月～11月									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	高橋博英	地域企画 課	企画・県民 生活班	木村昭彦	0182-3 2-0594	コミュニティFMを活用した 情報発信	・住民に密着した地域メ ディアと連携し、各種事 業・イベント・注意情報な どについてリアルタイムで 情報発信することにより、 地域振興局独自の広報活 動の一層の拡充を図る。	88,200	直営	県政に関する情報につい て13件、計28回の放送 を実施してもらった。	平鹿地域振興 局総務企画部	横手コミュ ニティFM (株)	平成25年4月1日	・地域に密着し、多くのリス ナーを抱えるコミュニ ティFMを利用することによ り、リアルタイムで広域に 有用な情報を発信するこ とができ、積極的な広報 活動となった。 ・また、無料枠を活用した 情報提供(農作物の生育 状況・交通安全呼びかけ) なども継続的に行うことが できた。	・今年度は、各部の担当 者から年間の放送依頼計 画を提出してもらい、担当 で調整を行った。部により 金額や情報量に差があっ た。 ・今後は、無料枠も十分に 活用しながら、さらに活発 な情報提供に努める。
						平成25年5月～平成26 年3月							平成26年10月31日		